

おかちまち たいとう

台東区立御徒町台東中学校 学校だより 第3号

令和8年6月18日(木)

校長 福沢 俊之

TEL 03 (3831) 3787

学校ホームページ



<https://www.taito.ed.jp/1320111>

↑更新中

あいさつの意味

—ふれあい(いじめ防止強化)月間にあたって—

校長 福沢 俊之

メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手は、投手として160 kmを越える豪速球を投げ、打者としてスタンドを越えるホームランを打つ野球選手として注目されるだけでなく、その人間性にも多くの人が惹かれます。私も大谷選手の出場している試合中継を見ることがありますが、バッターボックスに入るときもヒットを打って塁に出たときも、笑顔で審判や相手チームの選手と短い言葉を交わしている姿が印象に残っています。そのような折、偶然にネット上で大谷選手の短いエピソード動画を見つけました。それは、「彼だけが全ての打席で行っている、メジャーリーグの審判たちが口をそろえて語るエピソードを知っていますか。」というナレーションで始まります。大谷選手は、自身の打席に入る直前、必ず審判の眼を見て、「Hello」とあいさつをするということです。私が印象に残っているのはまさにこうした場面でした。試合の第一打席であいさつをする選手は他にもいるようですが、大谷選手は試合の勝敗を決めるような緊迫した場面でも変わらずあいさつをします。また、第一打席では対戦相手のベンチにいる監督にもヘルメットに手を添えて会釈をしているといいます。その動画とナレーションを聞き、本校がこれまで大切にしてきた言葉「あいさつは、いつでも、どこでも、なんどでも」を思い、いつか朝礼で生徒に話そうと思ったのです。

その動画では、こうした大谷選手の姿勢を「誰に対しても壁を作らず同じグラウンドにたつ全ての人を等しくリスペクトする。その一切ぶれない一貫性」と表現し、大谷選手が真のスーパースターといえるのは前人未踏の大記録を打ち立てただけではなく「どれほど高みに上り詰めても変わることのないこの飾らない人間性、打席に立つたびに繰り返されるわずか数秒の短いあいさつ。」にあると伝えています。そのあいさつには、純粋に少年の頃のように野球を愛する心、共に野球にかかわる全ての人たちに対する敬意と感謝が込められている、そして「大谷翔平、彼こそが野球というスポーツの品格そのものなのです。」と締めくくっていました。

私が着任する前から、御徒町台東中学校が「あいさつ」を大切にしてきたことには、誰もが同じ人間であり、お互いにその存在を認め人としての尊厳を大切にする、という目指す学校像があります。さらに、紹介した動画のナレーションで「大谷翔平こそが野球というスポーツの品格そのもの」と述べていたように、私は、生徒一人ひとりが、御徒町台東中学校の品格を象徴する存在であってほしいと思っています。それは、社会に出たときに、どこでも誰からも認められる人になることにつながるものと信じているからです。

【動画 URL: <https://youtube.com/shorts/RSoqhegwrwx?si=Dk-MtNhWdm58StoA>】

令和8年度 運動会



6月はふれあい月間です

ふれあい月間では、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を図るための取組を行っています。

本校では、定期考査ごとに年5回の生活アンケートを実施しています。定期考査の時期は、生徒が学習面や生活面、人間関係について自分自身を振り返る大切な節目になります。その機会を生かし、学校生活の中で困っていることや不安に感じていること、友人関係で気になることなどを継続的に把握することで、生徒の小さな変化を見逃さないよう努めています。

アンケートの内容については、担任だけでなく、学年、スクールカウンセラー、管理職等で情報を共有し、早期の面談や支援につなげています。また、いじめの疑いや心配な状況が見られる場合には、学校いじめ対策委員会を中心に対処方針を検討し、組織的に対応しています。

あわせて、学級活動や道徳科等の授業を通して、いじめは絶対に許されない行為であること、相手の立場や気持ちを考えて行動すること、不安や悩みがあるときには一人で抱え込まず、周囲の大人に相談することの大切さについて指導しています。

学校では、子供たちが安心して学び、互いを大切にしながら生活できる環境づくりを進めてまいります。御家庭でも、お子様の様子で気になることがありましたら、些細なことでも学校へ御相談ください。学校と家庭が連携しながら、生徒一人一人を見守っていきたいと考えています。